



「静けさを整え、夏をひらく」

～一学期の歩みを振り返り、気遣いの心をはぐくむ～

校 長 森角 由希子

梅雨の晴れ間に差し込む光が、夏の訪れをそっと知らせてくれる季節になりました。校庭には生徒たちの元気な声が響き、教室には学びに向かう真剣な表情が並んでいます。新年度の緊張が少しずつほぐれ、1学期の折り返しを迎えた今、生徒たちはそれぞれの場面で確かな成長を見せてくれています。授業での集中したまなざし、行事に向けて仲間と力を合わせる姿、友だちを思いやる小さな行動。その一つひとつが学校全体に温かな空気を広げています。

こうした生徒の姿に触れていると、「相手を思う気持ち」や「さりげない気遣い」が、周囲に安心感をもたらすことを改めて感じます。そのたびに、若い頃のある出来事を思い出します。

数十年ほど前、モデルルームを訪れた際、引き戸を軽く押すだけで静かに閉まる「ソフトクローザー」という仕組みに出会い、その便利さに驚きました。「日本間にも使えますか」と尋ねると、「対応していません」との答え。日本の引き戸には、もともと丁寧な作法や相手への気遣いが込められていたことを思い出し、少し恥ずかしくなったことを覚えています。

和室に入るとき、襖は「失礼します」と声を掛け、相手の様子を伺いながら静かに開けるのが作法です。立ったまま勢いよく開けると、相手との目線の高さが揃わず、失礼にあたることもあります。襖の開閉には、相手を思いやるための段取りがいくつもあり、その一つひとつが「心を配る」という日本らしい美しさを感じさせます。また、ソフトクローザーが当たり前になった今では、機能のないドアに出会ったとき、閉まりきる前にその場を離れてしまう姿を見かけます。わずかに開いたままのドアは、相手への配慮が欠けているようにも映ります。便利さが進む時代だからこそ、こうした“ひと手間の気遣い”を大切にしたいものです。

まもなく夏休みを迎えます。生活リズムや学習習慣が乱れやすい時期ですが、学校と家庭が協力し、子どもたちを温かく見守っていきたいと思います。無理のない計画を立て、心と体を整えながら、充実した夏を過ごしてほしいと願っています。保護者・地域の皆さまには、日頃より学校教育へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。これからも、生徒一人ひとりが自分らしく輝けるよう、教職員一同努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

